

環境保護への基本姿勢

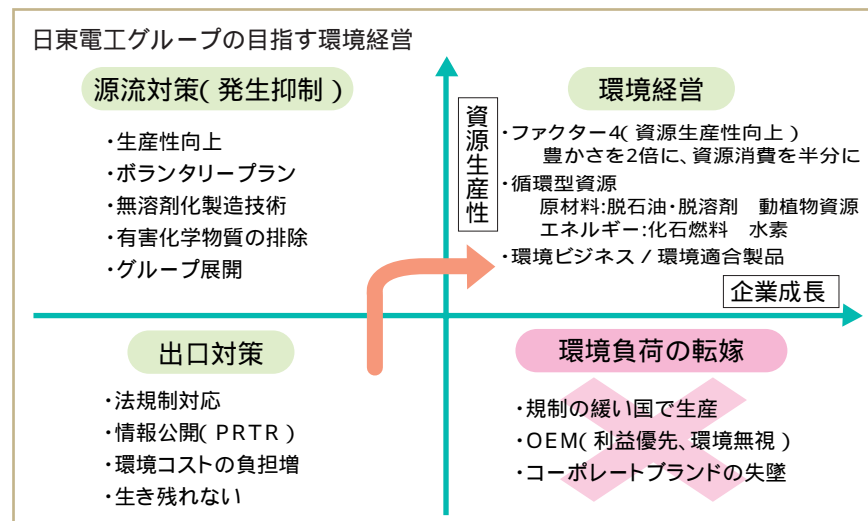
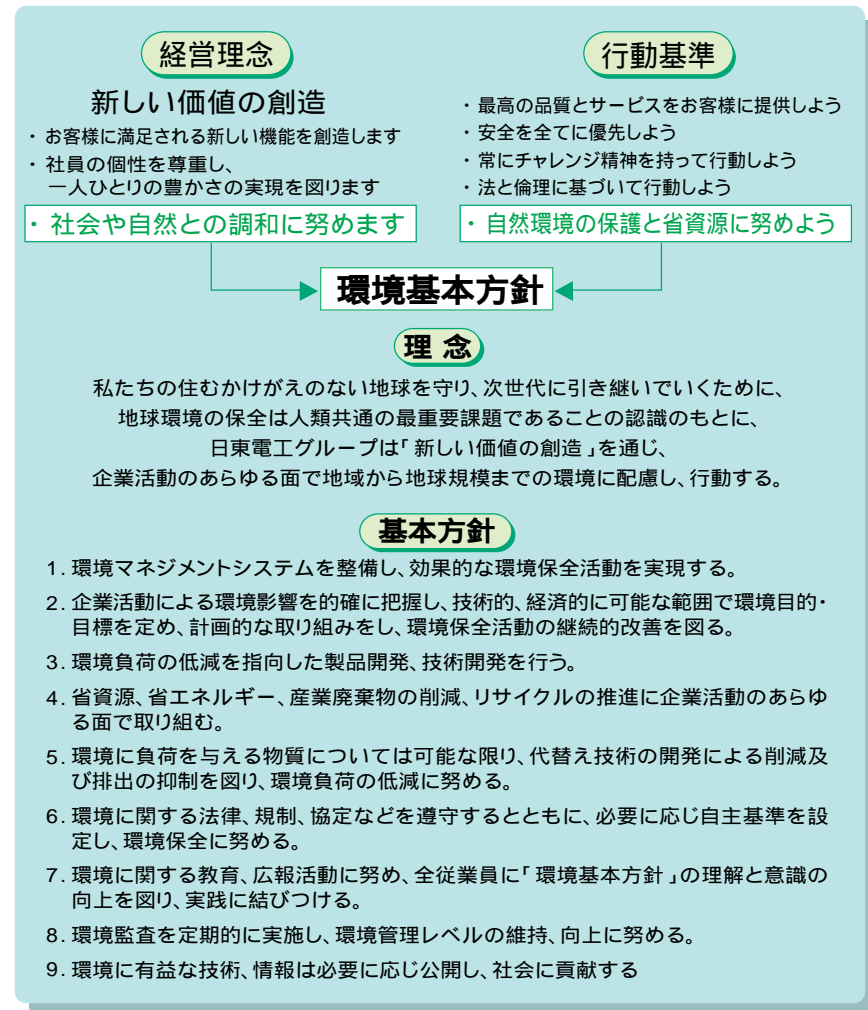
環境基本方針

「自然との調和」を経営理念に掲げ、「自然環境の保護と省資源に努める」ことを行動の基準とする日東電工グループにとって、環境保護活動は経営の一部です。当社では1996年に制定した環境基本方針に基づき、資源生産性と企業成長が両立する「環境経営」を目指して活動を推進しています。

環境経営

日東電工グループは、1993年に経営理念「新しい価値の創造」と、これを実現するための日々の企業活動の指針として「行動基準」を制定しました。お客様に新しい価値を提供し続けることにより、企業としての健全な成長を図るとともに、社会、株主、そして従業員など、すべてのステークホルダーにとって存在価値のある企業を目指しています。この行動基準をもとに、お客様の満足度の基本である製品安全や環境保全などの取り組み方針を制定しています。とくに環境保全の取り組みについては、1993年にボランタリープラン(環境保護活動計画)を策定。1996年に「環境基本方針」を制定し社内外に公表しました。この環境方針は英訳し、海外のグループ会社も含め周知を図っています。

当社グループは、1960年代から有機溶剤などによる大気汚染防止を中心として、溶剤回収装置の設置、脱臭炉(溶剤の燃焼処理装置)の設置など出口対策を進めてきました。現在は、出口対策中心の取り組みから、有機溶剤を使用しない製法への転換や、廃棄物が発生しない製法への転換など、源流対策・プロセス改革を指向しています。そのための研究開発、製造技術開発を通して、単なる環境保全だけではなく、環境と事業の両立を追求し、社会への貢献を図っていきます。



環境戦略と2001年度主要活動実績

日東電工グループは、「環境経営」実現のための環境戦略を策定しており、そのなかから年度ごとの主要活動項目を決め、環境委員会を中心とした推進体制で、全社一丸となった取り組みをしています。

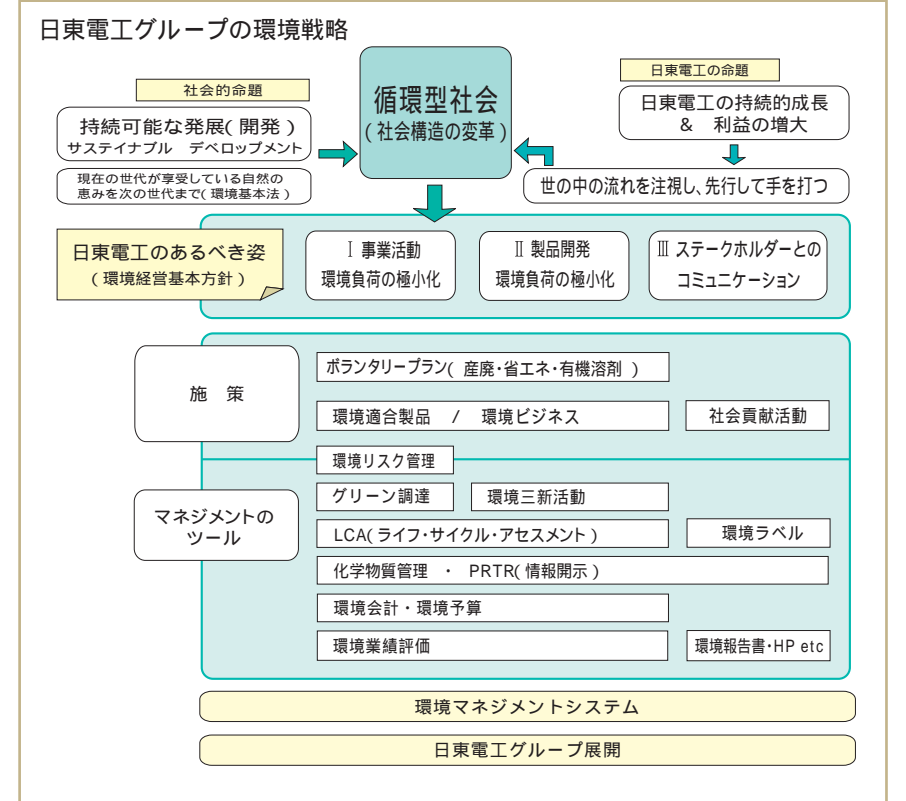
環境戦略のコンセプトと施策

持続可能な発展のために循環型社会を構築していくことは、社会的な命題であるとともに当社グループの命題でもあります。そこで環境に対する中期計画として「あるべき姿」を描き、循環型社会構築に向けた環境戦略を立案しています。この環境戦略に基づき、各施策ごとの課題を明確にし、優先順位をつけて各年度の活動項目を決め、実績をフォローしています。

2001年度主要活動項目

2001年度に主要活動項目として取り組んだ項目と、その実績は次の通りです。

- ボランタリープランの目標修正**
・産業廃棄物の削減目標を上方修正
- 化学物質管理**
・禁止、削減、管理物質として1711物質を対象に日東電工自主管理化学物質管理指針制定。
新製品には9月から適用
・化学薬品管理システムを本社へ導入しスタート
- LCA**
・環境適合製品の評価基準の制定完了
- グリーン調達ガイドライン制定**
・資材部、環境技術開発部で作成。お取引先へ配布。日東電工ホームページにも掲載
- 環境報告書(2001年度版)発行**
・環境報告書を6月に発行、ホームページには英語版も併載。
- 環境会計・環境予算**
・今年度より国内グループ会社を含めて実施。海外グループ会社を含む2002年度環境予算編成
- 総合内部環境監査**
・計画通り8事業所実施。
- 産業廃棄物削減に関する表彰規程制定**
・産廃原価低減貢献賞(効果金額の1%を表彰)、ゴミゼロ工場達成賞を新設



全社の推進体制

年2回開催される「環境委員会」は、環境に関する当社グループの最高審議機関です。ここで決定した事項は各事業所に徹底されます。また、国内の各製造事業所では、事業所長が環境に

関する経営者となり、事業所環境委員会、環境管理責任者、内部環境監査員を配置。事業所に適した環境マネジメントの構築・実施・維持・改善を行い、それぞれの方針に基づいた環境保護活動を実施しています。

